

挑戦から飛躍へ

～当たり前を超えていこう～



TAKANAWA GATEWAY CITYやOIMACHI TRACKSのグランドオープンとともに、新しい2026年度がスタートいたしました。昨年度を振り返ると、駅や商業施設、オフィスビルにおける人流は着実に増え、街に賑わいが戻ってきました。それに伴い、サービス品質への期待もこれまで以上に高まり、社会インフラを支える私達の業務に求められる役割も一段とその重要性を増しています。

一方で、私たちを取り巻く環境は決して順風満帆ではありません。深刻化する人手不足、清掃ロボットや自動化技術の進化による業務の高度化、エネルギー価格や物価の上昇など、さまざまな課題が当社を取り巻いていることに加え、お客さまのニーズが多様化し、「より高品質に」「より効率的に」という期待が年々高まっている状況です。

そのような環境の中で、早朝から深夜まで現場を支え、当社のサービス品質と信頼を守り抜いている社員の皆さまの姿勢が、お客さまの安心と満足につながっています。社員の皆さまの誇りと責任感が、当社の将来を確かなものにしていただいています。本当にありがとうございます。

さて、2026年度は、上記のように人手不足の深刻化、物価の上昇、世界経済の不確実性の高まりなど、経営環境はさらに不確実性を増すことが見込まれます。JR東日本グループでは、グループ経営ビジョン「勇翔2034」のもと、モビリティ事業と生活ソリューション事業の二軸の強みを生かした成長戦略を推進し、「当たり前を超えていく」としてまいります。当社に大きくかわかるテーマでは、「広域品川圏」のまちづくりや「UPCYCLING CIRCULAR」に代表される持続可能で豊かな地球環境をめざす取り組みがあり、いずれもグループ全体で連携して施策を推進していく必要があります。こうした状況を踏まえ、当社は2026年度の重点施策を「挑戦から飛躍へ ～当たり前を

超えていこう～」と定めました。具体的には下記の4項目を重点施策とし、JR東日本グループ事業への貢献と、会社や個人の成長を両立させ、2026年度を当社にとって飛躍の一年とすることをめざしています。

① 広域品川圏への貢献

品川・高輪ゲートウェイエリアを中心とした浜松町駅～大井町駅にかけての広域品川圏では、新しいまちづくりに「清掃」と「資源循環」の両面から貢献していきます。日本の玄関口となる新しい街の第一印象を決める「清潔さ」をつくりあげるために、「アクセス品質」を徹底して磨きあげます。また、環境への負荷を低減するため、TAKANAWA GATEWAY CITYエリア内で排出される食品廃棄物を、熱エネルギーに再生するバイオガス施設の安定稼働に取り組んでいきます。これらの重要な役割を果たすことで、私たちの品質と技術が、新しいまちの魅力やJR東日本グループのブランド価値を支える力になっていくことを意識して、日々の業務に取り組んでいきます。

② イノベーションで清掃方式を革新

「イノベーション」とは、新技術を取り入れ、それを活用して「働き方そのものを革新し、これまでになかった価値を生み出すこと」です。現場の困りごとを起点に原因を分析し、小さく試し、うまくいったものを標準化・水平展開する取り組みをさらに進めていきます。成功を一部の現場にとどめず、会社全体の再現性ある運用へとつなげていくことで、継続的に新たな価値とサービスを生み出す循環をつくりだします。反対に、うまくいかなかった場合にも、その原因を探り、見直すことで次の改善につなげ、CBM清掃ならではの「現場起点の成長サイクル」を強固にしています。昨年度は、CBM推進本部を設置するとともに、

当社初となるCBM清掃方式の契約をペリエ干菓店さまで実現しました。今年度はこのCBM清掃方式を確かなモデルとして位置づけ、蓄積した知見を活かしながら、CBM清掃契約のさらなる拡大を進めるとともに、清掃ロボットの導入を加速し、稼働率アップをめざしていきます。現場の困りごとを起点に、新しい価値とサービスを生み出す「アクセスらしいイノベーション」を着実に積み重ねていきましょう。

③ 資源循環事業の拡大

JR東日本グループでは、資源循環事業を通じて社会的課題を解決し、地域社会の持続的な発展への貢献とSDGsの達成をめざす「UPCYCLING CIRCULAR」を推進しています。私たちは、この重要な取り組みにおいて、廃棄物処理の「入口から出口まで」の収集運搬の役割を担っています。今年度は資源循環事業の「集める × 運ぶ × 処理する」のすべてを強化し、「UPCYCLING CIRCULAR」の実現と収益拡大をめざしていきます。まず、収集運搬ルートでの最適化では、リニューアルした新木場事務所を拠点とし、効率的な収集ルートを再構築します。処理設備についてはA棟のリニューアル工事を完了し、資源循環センターの処理能力を最大限まで引き上げます。事業全体の稼働を高める鍵は廃プラスチック回収量の拡大です。駅ビル・商業施設・オフィスビルなど多様な排出元との連携を深め、再資源化可能な素材の回収精度を向上させることで、排出された廃棄物を確実に再資源化へとつなぐ「橋渡し役」を担い、グループ内利活用への拡大につなげます。資源循環は環境対策にとどまらず、グループ全体の経営価値を高める成長領域です。資源循環事業を収益の柱として価値を高め、社会的貢献と事業成長の両面で推進していきましょう。

④ 「働いていて良かった」と思える会社へ

アクセスが着実に成長していくためには、社員の皆さま一人ひとりの成長が欠かせません。そのため、2026年度は、「働いていて良かった」と実感できる会社づくりをこれまで以上に推し進めていきます。まず、安心して働ける環境の整備をさらに進めます。持続的な待遇改善の取り組みに加え、休憩スペースの改修や作業負担を軽減するための環境整備、ケガ予防につながるオリジナル体操の普及など、日々の安心につながる施策を進めていきます。次に、社員が成長を実感できる仕組みづくりに取り組みます。駅舎清掃競技会への参加、資格取得、技能検定の支援、階層別研修など、各自の経験が自信につながる機

会を積極的に提供します。新入社員、主任、シニア、管理職、現場長といった各階層に対応した学びの場を設け、仲間とともにスキルアップしていける会社をめざします。さらに、やりがいの創出にも取り組みます。「自分のアイデアで会社が良くなった」ことを実感できるよう、小集団活動や改善提案など「自分の発案がカタチになる」流れをつくりまします。社員が「安心」「成長」「やりがい」を実感できる会社であってこそ、アクセスも次のステージへ飛躍できるのです。2026年度は、その土台をさらに盤石なものにしていきます。

上記4つの重点施策を支える大切な基盤がコンプライアンス遵守とガバナンス強化です。当社の企業理念にあるように、私たちの使命は、「安全を追求し、信頼される誠実な仕事をする」とあり「お客さまに快適な空間を提供すること」「地球環境保護に貢献すること」そして、「未来に向けて進化し続け、「選ばれる会社」をめざす」ことです。社会全体はもちろん、JR東日本グループでもガバナンス強化が大きなテーマとなる中、当社においても、契約履行や法改正への対応など、コンプライアンス遵守を自分ごととして捉えることは、「守り」ではなく、「信頼」を積み上げ、事業の広がりを支える「攻めの基盤」となります。原点に立ち返って、「信頼される誠実な仕事」を通じて、お客さまや世の中から「選ばれる会社」を愚直にめざしていきましょう。

アクセスの最大の財産は、社員の皆さまです。2026年度は、全員で「当たり前」を超える挑戦を、より多く・より速く・より確実に成果へと結びつけていきましょう。広域品川圏での新たな舞台、イノベーションによるCBM清掃方式、資源循環事業での社会貢献と収益拡大、そして「信頼される誠実な仕事」を通じた「選ばれる会社」への取り組み。これらを一体で進めることで社員の皆さまとともに挑戦から飛躍する一年を実現していきたいと思ひます。社員の皆さまがJR東日本環境アクセスで働いていて良かったと思えるように、今年もともに未来へ進んでいきましょう。

社長室より

このコーナーで折り紙を紹介させていただいたところ、読者から想像以上の反応があり作品までいただきました。今回は私が過去に折った、悪さをしないよう普段は瓶詰にしている悪魔たちとともに、読者からいただいたミニ悪魔を紹介します。



【前川淳作 悪魔より】